

甲 佐 地 区

甲佐地区は町南端の平野部に位置します。

中世には、陣ノ内城跡や松尾城跡とその城下町、近世には細川藩政期の甲佐手永における唯一の在町である岩下が発展するなど、現在まで甲佐町の政治・経済の中心となっています。また、鵜ノ瀬堰や築場、清正公山等、加藤清正に関するものや、甲佐井手や新井手といった用水も認められます。

さらに近代になると、西日本で最初の、かつ最大の民営製糸場緑川製糸場も設立されました。



30. 尾北の猿田彦大神（所在 ひがしさまの 東寒野区）

尾北地区を過ぎた町道交差点右脇にあります。

建立年は不明で、高さ 100㌢、最大幅 70㌢、最大厚 40㌢、台座は三段で上段 33㌢、中段 20㌢、下段 90㌢です。上段の台座正面に「明治 / 十三年（1880） / 辰年 / 五月 / 尾北組」と刻まれています。

祭日は 8 月 15 日です。



31. 尾北眼鏡橋（所在 東寒野区）

東寒野区ようみょうじの永明寺から約 450メートル東の緑川左岸の尾北川合流地点付近に架かる石橋です。

文政 13 年～天保 14 年（1830～1843）に架橋され、東・西寒野区と名越谷なごしだに（美里町）を結ぶ主要幹線を担ってきました。アーチの美しい曲線と基礎の根石が特徴的です。

現在の橋長は 11.5メートル、橋幅は 2.7メートルです。橋の材質は、加工しやすい阿蘇溶結凝灰岩です。



32. 白象山 ようみょうじ 永明寺（旧：永明寺）（所在 東寒野区）

宗派は、浄土真宗本願寺派で、本尊は阿弥陀如来です。

入母屋造瓦葺平入の本堂には御拝口があります。境内には、二層の山門や入母屋造瓦葺の鐘楼があります。

『甲佐町史』によると、明暦 3 年（1657）、川尻町（熊本市南区）明善寺の法弟である祐信という僧が、東寒野村において草庵を結び、心睦庵（『新甲佐町史』では心暁庵）と号して代々世襲をしていました。明治 12 年（1879）に『国郡一統志』や『肥後国誌』に記述がある「永明寺迹」の寺号公称を許された、とあります。



33. 永明寺阿弥陀堂（所在 東寒野区）

東寒野区の永明寺境内にあります。切妻造瓦葺平入のお堂には、像高 58センチ、幅 38センチ、台座 25センチの木造阿弥陀如来坐像が祀られています。

『国郡一統志』には「東寒野 釈迦 正福寺 永明寺 普賢 文殊 地藏」と記されています。『肥後国誌』には「甲佐郷寒野村ト云小木田村永明寺村等小村アリ永明寺迹 不分明」とあります。

この阿弥陀仏を指す記述はなく、その由緒等は不明です。以前は東寒野区の人が祀っていましたが、現在は永明寺で護持されています。



34. 東寒野地藏尊（所在 東寒野区）

永明寺より 100メートル東の緑川左岸側の鵜ノ瀬堰（町指定文化財）を見下ろす道路沿いにあります。

白いコンクリート造の石室の中には、二体の仏像が祀られています。右は総高 110センチ、像高 75センチの石造観音菩薩立像で舟形光背を負い、両手に蓮の花を持ち、左は総高 53センチ、像高 35センチの石造地藏菩薩坐像です。

地藏尊は享和 2 年（1802）に鵜ノ瀬堰の大修理が行われた際に造立された像です。供献の石製花立てには「文久二年（1862）奉納 村長 忠左右衛門」と刻まれています。文久 2 年（1862）は享和 2 年（1802）から 60 年目にあたります。



35. 白石板碑（所在 東寒野区）

東寒野公民館の裏手にあります。

板碑は高さ 104センチ、最大幅 52センチです。

板碑の上部に月輪が刻まれ、その中には大日如来を表す種子が刻まれ、下部に「永禄二年（1559）三月十二日」と刻まれています。現在は摩耗のため文字は判読出来なくなっていますが、逆修供養板碑と考えられます。

目の前には、松ノ尾川が流れており、「お蝶滝」を見ることができます。



36. 堂迫眼鏡橋（所在 東寒野区）

東寒野公民館近くの松ノ尾川を上流へ向かい、三つ目の橋が堂迫眼鏡橋です。

上流側はコンクリートで道が拡幅されており、下流側から石造りのアーチを確認できます。架橋時期は不明です。

現在の橋長は4.6メートル、橋幅の中央部分が5.6メートル、アーチの大きさは径間4.35メートル、拱矢（川面からアーチ部までの高さ）1.95メートルです。橋の材質は、加工しやすい阿蘇溶結凝灰岩です。



37. 大祇神社（所在 西寒野区）

西寒野区の宮園地区にあります。

建立時期等は分かりませんが、『国郡一統志』には「大祇明神」、『肥後国誌』には「大神宮（大祇宮）」と記されています。

祭神は景行天皇で、お祭りは秋分の日です。神事は甲佐神社より神主が来て執り行われていますが、祭りの運営は実行委員会と区内5組による持ち廻りで、しめ縄作りや料理が振る舞われます。現在も子ども相撲や出店、同区有志による「肥後にわか」や「チョンかけコマ」も披露され、賑やかに行われています。



38. 大祇眼鏡橋（所在 西寒野区）

大祇神社の鳥居前を流れる宮園川に架かる小さな石橋です。

橋の長さは4.5メートル、橋の幅（路面幅）250センチ、アーチ部から路面までの高さ90センチ、川面からアーチ部までの高さ（拱矢）100センチです。路面は、上流側へ100センチ程拡張されています。橋の材質は、やや赤みを帯びた阿蘇溶結凝灰岩です。

現在も生活道路として利用されており、上流側はコンクリートで道が拡幅されているため、下流側から石造りのアーチを確認できます。



39. 宮園地蔵尊（所在 西寒野区）

西寒野区の宮園地区で、大祇神社より約 60m 西の四差路に石室があります。石室は間口 116cm、奥行 40cm、高さ 110cm です。中には二体の石造地蔵菩薩が祀られ、右の地蔵は、像高 38cm、幅 27cm で、「慶応元歳（1865）十一月 石工 壽助」と彫られた台石に乗っています。左の地蔵は像高 36cm、幅 28cm、両手で宝珠を持っています。

なお、西寒野区は、五地区（宮園・千才丸・小川島・松ノ尾・西）に分かれており、各地区の路傍に地蔵尊があり、地域住民を見守っています。



40. 千才丸の猿田彦大神（所在 西寒野区）

西寒野公民館手前を緑川側に入った個人宅にあります。

建立年は不明で、高さ 130cm、最大幅 70cm、最大厚 40cm、台座は 10cm です。

『新甲佐町史』によると、明治時代に作成された神社の基本台帳「肥後国上益城郡神社明細帳」では、大祇神社へ合併された猿田彦の板碑（旧所在地字名：千歳丸）は元の集落に残されたとあります。現地での信仰は今も続いています。

祭日は 3 月 15 日に近い日曜日です。



41. 西の観音菩薩（所在 西寒野区）

県道宮原甲佐線の熊本バス西寒野バス停より約 150m 西にあります。

西寒野区は、五地区（西、松ノ尾、小川島、千才丸、宮園）に分かれており、その中の「西地区」にあります。

切妻造銅板葺コンクリートのお堂は、間口 150cm、奥行 105cm です。中には、縦 65cm、幅 27 ～ 31cm の板状の石の表面に、像高 33cm の十一面観音菩薩立像が陽刻されています。



42. 西の猿田彦大神（所在 西寒野区）

西の観音菩薩の左脇にあります。

建立年は不明で、高さ 130センチ、最大幅 45センチ、最大厚 40センチ、台座は二段で上段 25センチ、下段 40センチです。

祭日は 3月 15日です。



43. 小川島六地藏（所在 西寒野区）

小川島地区へ入り、約 200メートル西の道路左脇にあります。

六地藏は高さ 243センチ、幅 44センチ、傘石の幅は 145センチ、厚さは 17センチで、15世紀頃の建立と考えられます。

以前は水田の中でしたが、耕地整理の際に現在の地に移されています。



44. 小川島の猿田彦大神（所在 西寒野区）

小川島六地藏の右隣にあります。

建立年は不明で、高さ 120センチ、最大幅 73センチ、最大厚 30センチ、台座は二段で上段 7センチ、下段 65センチです。



45. 鵜ノ瀬堰観音菩薩（所在 上豊内区）

やな場東側の^{やな}築の樋門（町指定文化財）上にあります。

間口 95センチ、奥行 115センチ、高さ 150センチのお堂には三体の石像が祀られています。中央の仏像は高さ 65センチ、幅 30センチの馬頭観音立像です。この仏像には「三界萬霊為結縁 南無観世音菩薩」と彫られています。享和 2 年（1802）に鵜ノ瀬堰（町指定文化財）の安泰と五穀豊穰を祈願して造られました。左右の石像は名称由来ともに不明です。

横には上豊内鵜ノ瀬堰改修記念碑と猿田彦大神が立っています。



46. 上豊内区の猿田彦大神（所在 上豊内区）

鵜ノ瀬堰観音菩薩の左脇にあります。

明治 13 年（1880）庚辰 4 月再建で、高さ 130センチ、最大幅 47センチ、最大厚 64センチ、台座は三段で上段 33センチ、中段 21センチ、下段 34センチです。



47. やな場（旧：上豊内やな）（所在 上豊内区）

県道三本松甲佐線を宮内方面へ約 1 キロメートル東に、藁葺き屋根の東屋があります。

築とは、竹で編んだ簀^すに落ちてくる鮎を捕る仕組みです。

この築は、加藤清正が川狩りを楽しむために設けた茶屋が起源で、その後、熊本藩主細川忠利が整備を進め、代々の藩主が来遊したとされています。

また、「やな場」の脇には昭和 16 年（1941）に「肥後の甲佐は鮎なら名所 御築（おやな）落鮎見において」と甲佐歌謡（小唄）をつくった詩人、作詞家の野口雨情の歌碑もあります。



48. 緑川製糸場跡記念碑(所在 上豊内区)

やな場の駐車場に「糸姫様」と呼ばれる緑川製糸場跡記念碑が建っています。

緑川製糸場は、明治8年(1875)6月に^{ながのしゅんべい}長野藩平と^{かえつうじふさ}嘉悦氏房によって豊内村に設立された、西日本で最初の、かつ最大の製糸場でした。

設立は官営富岡製糸場の3年後で、明治15年(1882)まで操業しました。多くの旧士族の娘が働き、その中には嘉悦孝子(日本初的女子商業教育校創設者)や徳富音羽(徳富蘇峰、蘆花の姉)もいました。彼女たちは技術を各地に広め、県内の養蚕製糸業に寄与しました。

この石碑の文字は^{とくとみそほう}徳富蘇峰の書です。



49. 四方仏(旧：上豊内四方仏)(所在 上豊内区)

上豊内の共同墓地に「四方仏」と呼ばれる二基の石塔があります。

四方仏は高さ97センチ、幅50センチで、完全な形では無く、三つ石造物の部材を組み合わせたものです。最上段には八角柱の四面に仏像が彫られ、中段は^{すいりん}五輪塔の水輪です。

『国郡一統志』には、「上豊内 藤崎八幡 西宮 安養寺阿弥陀 法念寺阿弥陀」、『肥後国誌』には豊内村に「安養寺迹 法念寺迹 共ニ宗旨年代等不分明」とあります。中世にはこの辺りは寺院が立ち並ぶ場所であり、村の人の話では、昔、安養寺があったとされる畑で発見され、現在地に移されたそうです。

この場所から約50メートル離れた場所に^{あんによじ}「安養寺の井戸」もあります。



50. 玉造神社(旧：西宮八幡宮)(所在 上豊内区)

やな場から約200メートル北西の上豊内区集落内にあります。本殿は^{しんめいづくり}神明造平入で、入母屋造瓦葺平入の拝殿には花の絵柄のある格子天井があります。拝殿前には阿吽の像が一体あり、祭神は八幡大神です。

本殿内には三つの厨子が並び、中央の厨子は最大幅140センチ、奥行48.5センチ、高さ160センチで、中には木造男神坐像が、左右の厨子には男女神像が祀られています。『国郡一統志』には「藤崎八幡」「西宮」、『肥後国誌』には「玉造神社」と記され、上豊内の人々は「八幡様」と呼んでいます。なお、玉造神社の名前の由来については、不明です。



51. 上豊内阿弥陀堂（所在 上豊内区）

上豊内区法念寺地区の山裾にあります。

切妻瓦葺平入のお堂には、台座が25㍍、像高70㍍で、筋光の光背を負う阿弥陀如来立像が祀られています。

法念寺は小西行長によって焼かれたと伝えられ、現在の阿弥陀堂は昭和59年（1984）7月に新築されました。

国郡一統志に「法念寺 阿弥陀 安養寺 阿弥陀」とあり、この阿弥陀如来像の詳細は不明ですが、古い仏像なので法念寺の本尊である可能性があります。

祭日は12月8日です。阿弥陀堂への石段横に板碑が一基あります。



52. 法念寺跡の板碑（所在 上豊内区）

上豊内阿弥陀堂近くにあります。

この辺りは中世に法念寺があったとされ、周辺には五輪塔の残欠があります。

板碑は高さ62㍍、最大幅33㍍、厚さ30㍍の安山岩製です。上部に月輪があり、その中に禅宗で悟りの境地を示す「咄」の文字が薬研彫されています。銘文から天正5年（1577）の建立とわかります。月輪に本尊ではなく、悟りの境地を示す文字を刻んでいることから、禅宗で建立された板碑の衰退時期のものと考えられます。



53. 稲荷大明神（所在 下豊内区）

史跡陣ノ内城跡の北西隅の鉤型に屈曲した堀底にあります。

石室は高さ100㍍、幅と奥行き135㍍のコンクリート製の台座の上に設置され、高さ113㍍、幅と奥行き36㍍、屋根幅は72㍍です。中には、正一位稲荷大明神と記載された木札が祀られています。石室周辺には手水鉢や石灯笼の部材なども確認できます。

この稲荷大明神は、安政4年（1857）に岩下町の豪商、天野屋の渡邊佐左衛門と市左衛門が商売繁盛を願って建立したものです。かつては、商人が定期的に訪れていましたが、昭和47年（1972）7月の豪雨による土砂災害で、稲荷大明神への参道は消失しました。

なお、建立主の天野屋が嘉永6年（1853）に建てた商売繁盛と子孫繁栄を願った石塔（旧：供養塔）が清正公山の中腹にあります。



54. 下豊内薬師堂（所在 下豊内区）

下豊内区の集落から陣ノ内城へ登る遊歩道の途中にあります。

切妻造瓦葺妻入のお堂は、間口2.6^{メートル}、奥行1.6^{メートル}で、拝殿の間口は4^{メートル}、奥行3.7^{メートル}です。お堂内の中央には総高60^{センチ}、像高22^{センチ}の薬師如来坐像、その右には総高55^{センチ}、像高48^{センチ}の月光菩薩立像が祀られています。表面は共に金彩色です。

両脇には薬師如来の守護神である十二神将が六体ずつ祀られています。薬師如来像、月光菩薩像、十二神将像共に漆喰造です。

下豊内区で近年、明治以降に記された文書が発見され、「慶長十年（1605）創立」とされていました。

祭日は12月8日（近年は8日前後の日曜日）で「薬師さん祭り」として受け継がれています。



55. 下豊内釈迦堂（所在 下豊内区）

下豊内薬師堂の約100^{メートル}南西の麓にあります。

切妻造瓦葺平入のお堂は間口230^{センチ}、奥行250^{センチ}で、金彩色の木造釈迦如来坐像が祀られています。

『国郡一統志』には下豊内の寺院について「下豊内 西應寺阿弥陀 大應寺釈迦薬師 教栄寺真宗」と記載されています。『肥後国誌』には「教栄寺 夷堂」のみが記され、西應寺阿弥陀 大應寺釈迦薬師は、廃寺になっているらしく記載されていませんが、この釈迦如来座像は下豊内の大應寺の本尊である可能性があります。



56. 下豊内阿弥陀堂（所在 下豊内区）

史跡陣ノ内城跡への登り道の下にあります。

切妻造瓦葺妻入のお堂は、間口190^{センチ}、奥行220^{センチ}です。本尊は、総高95^{センチ}、像高58^{センチ}の木造阿弥陀如来立像です。

阿弥陀堂は、慶長年間に移設されたとされ、『国郡一統志』には、「下豊内 西應寺阿弥陀 大應寺釈迦薬師」と記されています。しかし、『肥後国誌』には記載がないので、西應寺阿弥陀・大應寺釈迦薬師は、廃寺になっていたようですが、この阿弥陀如来坐像は下豊内の西應寺の本尊である可能性があります。



57. 下豊内横穴群 (所在 下豊内区)

下豊内阿弥陀堂横の新井手^{しんいで}に沿って多くの横穴が見られます。

この横穴は、古墳時代後期～終末期の1,400年～1,500年前に造られた墓です。丘陵の斜面に横穴を掘り、その中に遺骸を埋葬するものです。

本横穴群は詳細な調査が実施されていませんが、脆い阿蘇溶結凝灰岩^{もろ}の崖面に掘りこんでいるために崩壊が激しく、完全な元の状態を残していません。内部はドーム状で屍床^{ししょう}（遺体を直接安置する場所）が設けられています。本横穴群が造られた崖斜面には太平洋戦争時に掘られた防空壕もあり、中には横穴墓を拡大して防空壕に利用したものもあります。



58. 下豊内新井手隧道 (所在 下豊内区)

陣ノ内城跡に沿って流れる新井手(上井手用水)は、上豊内区を起点に下豊内区、中横田区、下横田区を通り田圃を潤しています。

この用水路は、全長2.7^{キロ}を超える大規模な水路で、途中には、高さ1.5^{メートル}、幅1^{メートル}の2本の隧道があり、その延長は200^{メートル}に及びます。

江戸時代、下横田区や中横田区では日照りが続くと、水争いが起きるほど農民を苦しめました。惣庄屋^{そうじょうや}の木原寿八郎は、この状況を見かねて鶴ノ瀬堰(町指定文化財)から分水することを計画し、文政7年(1824)に水路を完成させました。特に下豊内区内は難工事で、3年以上の期間を要しました。



59. とくどうさん (所在 下豊内区)

県道三本松甲佐線沿いの下豊内区の民家に「とくどうさん」と呼ばれる三基の石碑があります。右が六地藏石幢^{せきどう}、中央に観音菩薩立像、左に板碑が据えられています。

六地藏石幢は高さ83^{センチ}、最大幅43^{センチ}、厚さ50^{センチ}で、15世紀後半の文明年間の建立と考えられます。中央の観音菩薩立像は18世紀後半、薬師如来の種子が刻まれた板碑は16世紀半ば頃の建立と考えられます。

「とくどうさん」は「ろくじぞうさん」が訛ったものです。



60. 甲南橋地蔵（旧：岩下地蔵尊）（所在 岩下1区）

甲南橋の袂にあります。

切妻造トタン葺妻入の木造の祠は、間口90㌢、奥行98㌢です。中には総高65㌢、像高39㌢、両手に宝珠を持つ石造地蔵菩薩坐像が祀られています。水の地蔵で、岩下2区の岩下地蔵堂にある火伏せ地蔵と対になっています。「あゆまつり」の起源となった地蔵で、昔は作り物もあり、砥用や堅志田（美里町）からも見物客が来ていました。以前は、現在地より上流にありましたが、甲南橋の架け替え時に現在地へ移されました。

平成28年（2016）熊本地震により被災しましたが、地元の方々によって修復されています。



61. 恵比寿神社（所在 岩下1区）

甲佐町商店街の本通りの中央部にあります。高さ120㌢の台座の上に置かれた間口70㌢、奥行65㌢の切妻造平入コンクリート造の石室です。側石に「明治11年（1878）寅11月再□ 石工休村 福田与作」と刻まれています。恵比寿像は総高38㌢、像高31㌢でレンガのような焼き物で作られています。



古文書『岩下根元記』に元和元年（1615）に蛭子観音勧進の記録があります。この頃、美里町（旧中央町）の岩下や上豊内、下豊内、西寒野など周囲の村々から移住する人々が多くみられ、岩下町として繁栄の基礎が作られました。恵比寿は商売繁盛の神様です。現在は緑町区、岩下1区や2区の人々が信仰し、守っています。

62. 井芹経平先生生誕の地記念碑（所在 岩下1区）

恵比寿神社の正面にあります。

記念碑は高さ45㌢、幅61㌢、厚さ35㌢の台座の上に、高さ106㌢、幅40㌢、厚さ15㌢の黒い石板が載っています。

井芹先生は慶応元年（1865）5月1日に甲佐町岩下東園で生まれました。明治21年（1888）に東京高等師範学校を卒業後、佐々友房に招かれ、済々黉の第5代校長に就任しました。同校の中興の祖として、在職中の36年間で教育界に新風を吹き込み、「東に菊池謙次郎あり、西に井芹あり」と称され、全国的に評価されました。

昭和27年（1952）には、熊本県近代文化功労者として顕彰されました。



63. 天理教熊明分教会（所在 岩下1区）

甲南橋地蔵から約160[㍎]北にあります。

宗派は天理教です。教会は瓦葺き入母屋で、入母屋の玄関があります。

設立は大正14年（1925）11月9日となっています。

明治44年（1911）5月、和歌山県日高郡湯川村分教会から、原田亥一郎布教師が甲佐で教会を建て、布教を続け大正14年（1925）に宣教所設置の認可を得て今日に至っています。



64. 光縁山 教栄寺（所在 岩下1区）

宗派は浄土真宗本願寺派で、本尊は阿弥陀如来です。

境内隅に寄棟瓦葺の鐘楼があり、門の横に天保12年（1841）建立の地蔵堂があります。本堂は入母屋造瓦葺平入で、西南戦争では焼失を免れましたが、平成28年（2016）熊本地震で被災し、現在は仮本堂です。

現在は岩下1区にありますが、『甲佐町史』や『肥後国上益城郡村誌』によると、元は豊内村小園で浄信が開基したことや、明治11年（1881）11月に岩下町字東園より地蔵菩薩を合併したこと等の記載がみられます。なお、『新甲佐町史』によると、寛永9年（1632）開基とあります。



65. 岩下地蔵堂（所在 岩下2区）

甲佐郵便局から約50[㍎]北の右手にあります。

お堂は切妻造瓦葺妻入の三方吹き放ちで内陣と外陣に分かれており、内陣の間口190[㍎]、奥行350[㍎]、外陣は間口370[㍎]、奥行360[㍎]で、総高92[㍎]、像高75[㍎]の石造地蔵菩薩立像が手作りの帽子と前掛けをつけて祀られています。火伏せ地蔵と言われ、岩下1区の岩下地蔵尊にある水の地蔵と対になっています。起源は不明です。現在の堂宇の敷地は、大正年間に造酒屋の天野屋と萬屋から半分ずつ提供されたものです。平成28年（2016）熊本地震により被災しましたが、地元の方々によって修復されています。

祭日は7月24日です。



66. 甲佐井手（大井手）（所在 緑町区）

大井手用水は、鵜ノ瀬堰（町指定文化財）から岩下1・2区の中央を通り、糸田区塔の木まで国道443号沿いに続き、糸田区を経て糸田堰からの井手と合流します。

総延長は約20.5^{キロ}、幅は約3.6^{メートル}、灌漑面積は約435万平方^{メートル}に及びます。洪水時には、甲佐井手の取水口（^{こうもん}閘門）を閉じ、鵜ノ瀬堰からの水流を再び緑川に戻すための排水溝になります。

大井手用水は、慶長13年（1608）に、加藤清正が田上氏里に命じて築造した農業用水です。この用水路の完成により、農業用水の安定供給が実現し、大雨による氾濫の災害も解消され、灌漑や治水の面で大きな効果を発揮し、地域の農業発展に寄与しました。



67. 仁田子地藏尊（所在 仁田子区）

甲佐町から益城橋に向かう町道を橋の手前から右手の仁田子区に入り、約100^{メートル}北西にあります。

地藏堂には、蓮華台に立つ木造地藏立像が祀られています。本町には石造の地藏尊が多く、数少ない木造の地藏尊です。

地藏堂の由緒や建立年代は不明ですが、『国郡一統志』には、仁田子地区に「地福寺 地藏」の記述があります。しかし、『肥後国誌』にはこの記述がなく、廃寺となったと考えられます。この地藏尊が地福寺の本尊であったかは不明です。



68. 仁田子の猿田彦大神（所在 仁田子区）

役場から益城橋に向かい、橋の手前を左に約150^{メートル}向かった桜塘にあります。

慶応2年（1866）の建立で、高さ190^{センチ}、最大幅65^{センチ}、最大厚27^{センチ}、台座は二段で上段37^{センチ}、下段55^{センチ}です。

『新甲佐町史』によると、明治時代に作成された神社の基本台帳であった『肥後国上益城郡神社明細帳』では無格社として存置が許され、緑川の改修で堤防から集落内に移された、とあります。



69. 仁田子菅原神社（所在 仁田子区）

益城橋の約 50㍍甲佐側を右折し、下仁田子地区内約 20㍍の所にあります。

地元の人々は「天神さん」と呼んでいます。高さ 2㍍、四方 20㍍ほどの敷地には石段があり、縦 68㍍、幅 60㍍の菅原道真を祀った石室があります。明治 6 年（1873）の建立で境内には、梅の木、灯籠、門柱等があります。

『国郡一統志』には、「仁田子 地福寺 天神森」が記載されており、石室を建てる前は天神の神木を祀っていたのではないかと推測されます

祭日は 9 月の第 2 日曜日で、甲佐神社の神主が来られます。



70. 大町の板碑（所在 大町区）

甲佐高校から約 150㍍北の集落内にあります。

高さ 60㍍、最大幅 41㍍、厚さ 21㍍の砂岩製です。上部に月輪を刻み、右側面の紀年銘は大半が判読できませんが、「□正十三乙」と読めます。この紀年銘から天正 13 年（1585）の建立と考えられます。



71. 立岩神社（所在 大町区）

甲佐地区から県道甲佐稲尾野線の竜野地区入口左手に立岩神社があります。

境内には入母屋造瓦葺妻入の拝殿があり、ご神体の大きい岩を男岩（高さ 10㍍、幅 7.6㍍）、少し小さい岩を女岩（高さ 7㍍、幅 3.9㍍）として祀っています。

本町を貫流する緑川沿いには多くの水神様が祀られていますが、江戸時代の早川巖島神社の神官の渡邊玄察は、「立岩森（タテイハモリ）甲佐川筋此當りに水神頭（スギジンカシラ）」と記しており、立岩神社は「緑川第一の水神」と由緒書きにあります。

祭日は 7 月 11 日と 11 月 11 日で、神主を呼び、祝詞をあげています。



72. 田上氏里の碑（所在 横田区）

清正公山の山裾、岩鼻神社の麓の新井手の山際にあります。

縦 140センチ、幅 47センチの石碑が倒れており、その横には高さ 70センチの宝篋印塔の相輪と寛文 12 年（1672）の田上氏里（号：監物）の顕彰碑があります。

田上氏里は、慶長 13 年（1607）加藤清正が甲佐地方を巡検の際、清正の命で鵜ノ瀬堰（町指定文化財）から大井手用水の縄張りを担当し、その後、甲佐手永^{てなが}の惣庄屋に任ぜられました。



73. 岩鼻神社（所在 横田区）

清正公山^{せいしょこさん}登り口の鳥居を潜り、更に登ると「加藤神社」と記された鳥居があります。

祭神は加藤清正ですが、地元では「岩鼻神社^{いわはなじんじや}」と呼んでいます。この神社の所在する山は、元々長楽山と呼ばれていました。この長楽山には「清正公緑川改修の時、この山頂より工事の模様を日毎ご覧になったゆかりの地であります。後に長楽山を清正公山と呼ぶようになりました。」との伝承があります。



74. 八角塔（旧：清正公供養塔）（所在 横田区）

岩鼻神社の境内にあります。

全体の高さは 210センチで、7つの部材を組み合わせしており、上から 3 段目が八角柱です。

文政 7 年（1824）に長楽山の観音堂を修復した際の記念塔で、その碑文には、「清正が鵜ノ瀬堰を築く際に、元服前の田上盛重は若年であったが、役に功があつて鬼丸と呼ばれ、その名が地名として現在に伝わっていること。そして、盛重の父の氏里は、自らを四菩薩と号するほどに信仰心の深い人で、観音大師堂を建てたこと。観音堂の堂宇が壊れかかってきたため、渡邊正直や渡邊持などの有志住民等により、五月に着工し、六月に竣工して再建された。」等が記されています。



75. 新井手（上井手）と清正公山地蔵尊（所在 横田区）

岩鼻神社への登り口の第一鳥居の脇を流れる用水路があります。この用水路の開削は、江戸時代の惣庄屋の木原寿八郎の手により行われました。

用水は、鵜ノ瀬堰（町指定文化財）の漏斗口^{じょうごぐち}から引き、上豊内区から中横田区まで導く計画でした。そのため、下流に水が流れなくなるのではと、当初は反対も多くありましたが、寿八郎自らが説得に廻り、文政7年（1824）ようやく着手し、3年かけて造られました。嘉永年間（1848～1853）には、用水の潤す範囲は下横田・中横田・浅井・上早川の各区にも広がりました。



また、参道入口には像高70㍍の石造地藏菩薩坐像が石室に祀られています。傍らに凝灰岩製の石室屋根があることから、古くからこの場所にあったようで、現在の台座には「昭和36年（1961）9月吉日再建」とあります。

76. 横田観世音堂（所在 横田区）

甲佐高校裏の清正公山の麓の道路沿いにあります。

拝殿は、間口370㍍、奥行363㍍で、拝殿と本殿は幅190㍍、長さ91㍍の廊下で繋がっています。本殿の中には間口170㍍、奥行47㍍、高さ145㍍の厨子があり、中は三つに仕切られ、中央には総高60㍍、像高45㍍の木造観音菩薩坐像が祀られています。



観世音堂は、清正の13回忌にあたる寛永元年（1624）に長楽山（清正公山の前名）に建立され、その後に現在地（岩鼻地区）に移築されたと伝えられています。

祭日は11月18日です。

77. 長楽山 ^{しょうそうじ} 正宗寺（所在 横田区）

宗派は浄土真宗本願寺派で、本尊は阿弥陀如来です。

切妻造瓦葺平入の本堂で御拝口があります。境内には入母屋瓦葺の鐘楼があります。

『上益城郡誌』によると、寛永21年（1644）、横田村の田上七之助が剃髪し、名を了益と改めて創建したが、明治10年（1874）、西南戦争で堂宇が灰燼と帰した、とあります。『新甲佐町史』では寛永19年（1642）開基とあります。



78. 横田の猿田彦大神（所在 横田区）

甲佐高校裏（松橋西支援学校甲佐分校入口）の県道稲生野甲佐線の交差点を集落内に約 50m 入ったところにあります。

明治 13 年（1880）の建立で、高さ 165cm、最大幅 85cm、最大厚 70cm、台座は台形で最大 160cm です。



79. 横田地蔵堂（所在 横田区）

横田公民館の近くにあります。

入母屋造瓦葺平入のお堂は、間口 453cm、奥行 362cm です。奥の祭壇には、地蔵が七体祀られています。

地蔵は子供の成長を願い、供養する仏様です。七体中二体が総高 68cm と 47cm の木造立像で、他の五体は石造で一体は総高 50cm 立像、四体は 40cm ～ 46cm の坐像です。

それぞれの地蔵には、祈願された方の名前が記された前掛けが着けられ、祈願者による焼香台が奉納されています。



80. 有安の猿田彦大神（所在 有安区）

有安公民館前交差点を右折し、約 100m 左側にあります。

元治元年（1864）の建立で、高さ 200cm、最大幅 60cm、最大厚 34cm、台座は 105cm です。

『新甲佐町史』によると、明治時代に作成された神社の基本台帳であった「肥後国上益城郡神社明細帳」では緑川の改修で堤防から集落内に移された、とあります。

右脇には水神、左脇には地蔵が祀られています。



81. 有水山 しょうぼうじ 正法寺 (所在 有安区)

宗派は浄土真宗本願寺派で、本尊は阿弥陀如来です。

本堂は入母屋造瓦葺妻入です。境内には入母屋造瓦葺の鐘楼があります。

『甲佐町史』によると、正法寺は甲佐神社の神職を勤めて来た赤星一太夫の孫、赤星清太輔の子が浄土真宗に帰依して法名を慶智と改め、慶長3年（1598）、安平村から有安村に居を移し、寛永12年（1635）有安村に正法寺を開基した、とあります。

現在の本堂は、明治10年（1874）の西南戦争で焼失した後、明治20年（1884）に再建され、昭和63年（1988）に改修されたものです。





